

2020年5月 web 自主ゼミ・参加者アンケート結果

1. 自主ゼミのテーマ(ポストコロナ)について

1) 良かったこと・印象に残ったことなど

- ・誰もが直面しているテーマ、タイムリーなテーマで、参加者の関心が高く、活発な議論ができた。
- ・タイムリー、かつ焦点を、市況/働き方/未来塾 に分けて議論したところが極めて良かった。
- ・様々な観点からのポストコロナに対する意見を聞いたのはとても参考になった。
- ・各自の置かれた状況でコロナに対する対応の仕方や考え方が違うことがわかり、興味深かった。
- ・人数が集まることで様々な切り口の意見が聞いたことがよかった。
- ・どの議論やコメントも考えさせられる内容だった
- ・暫く経って状況が変わってきたときに、同じテーマでの議論をしてみたい。
- ・格差の拡大に社会としてどう対応していくのか、パラダイムシフトには価値観の変化が必要、グローバルリージョナルの軸とバーチャルリアリティの軸で考えるということが印象に残った。

- ・フィジカル環境の”再評価”、”再発見” いままで当たり前のことを見直すチャンス。そのうえで、サイバー環境とのすみ分け。マルチステージへの移行。何事もないと、つい後回しになってしまうことを、否が応でも考えざるを得ず、これらを加速するチャンスととらえるべきと再認識した。未来の”仮決め”、リソース配分しないと進まない=投資、仲間が必要 (by 出川先生)。テクノ未来塾はちょうど良い”場”であることを改めて再確認した。

2) 今後に向けての要望や提案など

- ・暫く経って状況が変わってきたときに、同じテーマでの議論をしてみたい。
- ・テーマを提唱した側が準備不足で、なにかの主張や提示が出来ず反省している。少し、議論の的を絞った方が良かったかもしれない。

2. WEB 開催の自主ゼミに参加した感想

1) テーマについて

- ・今回もいくつかの持ち帰るキーワードを頂いた。
- ・良いタイミングで良いテーマを取り上げて、zoom の活用も良い方法だった。
- ・選択肢の広がりを実感した
- ・今の時代にあった良い取り組みだった
- ・発言を通じて、業界が変わると置かれた状況も異なることを感じる事ができたのは新鮮だった。・思った以上に充実したゼミになった
- ・従来の合宿との勝手の違いはあまり感じなかった。長時間の集中により、頭が痛くなる場所も同じ。
- ・リアルな現状で「仲間がいっぱいいるのだ」と改めて感じた
特に医療に関係する企業の方々の見方を聞くことができたことはとても参考になった。
- ・それぞれの立場、環境、視点から様々な見方、アプローチがあり面白かった。また、様々な情報を得ることができ有意義であった。
- ・時事的にタイムリーな話題も扱えるところが良い。・慣れてないところはあるが、継続していけば定着するだろう。

2) オンライン開催について

- ・皆さん忙しい中、準備もされて忙しくも貴重な時間となった。zoom 分科会の実験も出来て良かった。
- ・zoom 練習の成果あってうまく運営できた。
- ・参加のハードルが下がるのは良い。都合つけやすい。
- ・時間的・場所的制約が少ないので、このような自主ゼミ？が、もっと増えても良い。参加人数が少なくても問題無い。
- ・言外の雰囲気伝わりにくいところはあるが、言葉だけでも深い議論になった。Web でもグループに分けて討論できたことも勉強になった。
- ・知っているメンバーで、全員に参加の機会が与えられる程度の人数だったことが良かった。
- ・WEB 会議システムを使用して、今回のような議論ができることがわかった。
- ・初めての WEB ゼミ参加で、繋がりにくい点もあったが、慣れていけばスムーズになると思う。時間の制約も減るので、有効だと感じた。
- ・時間がある程度長いので、休憩の取り方（頭の切り替えの方法）を工夫する必要がある。

3) グループ討議（ZOOM によるブレイク・アウト機能の活用）

- ・Break out で分かれて議論するのも面白かった。「リモートワーク」というテーマのグループワークに参加したが、ファシリテーションも勉強になった。一人ずつ発言するよりも、発言テーマを設定して、「あーだこーだ」言い合えるような進め方がまとめる際にもまとまりやすいのかなぁと感じた。
- ・ブレイクアウトセッションでの 4~5 人で議論を行う限り、あまり問題ないと思った。何度か練習しておくともっとフォーラム開催も可能だと思った。
- ・人数が増えたらやりにくいと思った。あまり発言のない人（声が大きくて自由自在に喋る人、以外）は、WEB だと更に発言しにくいかもしれない。20 名を超えるとちょっと難しいかも。

3. 今後のフォーラムの WEB 開催の可能性について

1) WEB の活用

- ・コロナ対策もあるので、トライアルからはじめてはどうか。
- ・従来のフォーラム形式と WEB との併用が良い
- ・講演テーマや講師によっては WEB 開催に適している時もあり、WEB で実施すれば機動的に開催できる
- ・フォーラムでも WEB 開催可能な印象を持った。何事もチャレンジかと。
- ・フォーラムの基本は直接ふれあいですが、サブとしての web 配信は意味がある。
- ・会場とオンラインの併用が、リアルに会う価値と時間と空間の制約なく参加できる価値の両方を、参加者の都合に合わせて提供できる
- ・是非、Web 開催枠も取り入れてほしい
- ・場所の制約がないことのメリットは大きい。
- ・WEB 開催であれば、自宅から遠方のフォーラムや PJ にも参加しやすくなる。興味ある人にも参加を促しやすい。

2) サテライトの活用

- ・各拠点のサテライト・WEB 併用型は是非進められると良い。
- ・オンオフ併用やサテライトを繋ぐなど進化すると良い。
- ・東京、名古屋、関西など、集まり易い場所に小人数が集まり、顔を合わせた議論も行いながらの全体 WEB 会議という形が良い

3) 課題

- ・未来塾に十分馴染んでいるメンバーであればリアルに近い議論ができそう。物理的、時間的制約がなくなれば、参加頻度の少ないメンバーとも交流できるようになるので有効活用したい。
- ・WEB で熱量、空気感、真剣味がどこまで伝わるか？
- ・聴講するだけなら、web 参加もあり得るが、質疑応答の対応や参加費の徴収などが課題。
- ・環境が整わない人がいたらどうするか？通信環境や自分用 PC がない、など。
- ・実際に合って話をする場合に比較するとインパクトは弱い
- ・あまり馴染めていないメンバーや新規入塾メンバーには配慮が必要。
- ・人数が多くなるとファシリテーション次第で上手くいくかどうかが決まる。

4) その他

- ・短時間で開催回数を増やすことができれば問題意識が継続することに繋がり、結果として参加した人のアウトプットに良い影響を及ぼすと思う。
- ・従来のフォーラム「講師と議論」という方式で、講演時間を 30~40 分くらいに短くして、グループ討論を挟んだのち、全体討論で更深く掘ってはどうか。
- ・移動時間、場所代がなくなることからフォーラムの方式を変更し、開催頻度を増やしてはどうか。例えば、1~2 時間×2 週連続。1 週目は問題提起とそれを受けての質疑応答や更なる課題の提起。2 週目に宿題持ち越しして発表。

4. 今回の自主ゼミに参加して、自分ならどんな自主ゼミまたはフォーラムを提案するか

1) WHAT①

- ・コロナ後の世界や仕事のやり方について議論したい
- ・コロナの影響を受けて、地球温暖化対策がどうなるか（緩むか、緩まないかなど）、日本のオンライン化は進むのか
- ・日本を元気にするにはどうすれば良いかの討論
- ・社会の変化を捉えるには？
- ・すでに起こり始めている社会の変化とこれから起こる変化の兆しを、起業する観点から捉えると、どう受け取り行動するか？
- ・身の回りに起こっているグローバル潮流、それによって具体的に社会はどう変わるのか、自分はどうか行動するか？
- ・塾生の年齢も上がってきているので、健康管理や食事療法
- ・ファシリテーションの勘所を勉強したい

2) WHAT②

- ・テーマを絞った討論会、例えば「ポストコロナの世界情勢」とか「with コロナの働き方」など今回の各テーマの掘り下げ。事前に参加者をグループ分けして意見を集約しておき、そこから議論開始。まとめはHPで公開、未来塾のアウトプットとする。
- ・フォーラム時に最近記載してもらっている「専門分野または興味分野」について何か大テーマを決めて持ち寄りで発表する。
- ・自主ゼミで塾生同士の発表でもよい
- ・「プロジェクトとサークル活動の組み合わせ、融合による新たなイノベーションの創出」
- ・各サークル、PJの連携模索

3) HOW

- ・アクティブブックダイアログのWEB開催は相性が良さそうな気がする。
- ・読書会、WEBの活用事例についての勉強会、日本が技術立国であるために自分たちにできることは？
- ・今回のようにタイムリーなテーマについて議論したり、プロジェクトの打合せをしたり、サークル活動をするには、WEB会議は向いている。
- ・発酵サークルは、不定期・継続的にオンライン飲み会を開催していきたい。
- ・少人数で飲み会、メンバーを囲んでの勉強会
- ・slackのみでやり切るのというのもありかも。